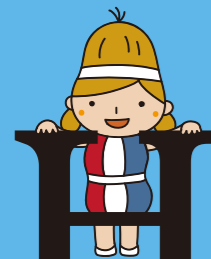


TAKE FREE

ご自由にお取りください



いのほなハーモニー

Harmony

67

2023.JAN.

特集

医療新時代に向けて～研修医の学びを全力サポート～

チームノチカラ

糖尿病コンプレクションセンター



れんがの庭オープン！(詳細は裏表紙へ)

千葉大学病院
CHIBA UNIVERSITY HOSPITAL

Harmony vol.67

千葉大学病院広報誌「いのほなハーモニー」第67号 2023年1月31日発行

Special Thanks

ご寄附いただいた皆さまにこころから感謝の気持ちをこめて

2022年11月の時点で総額4,930,594円ものご寄附と多くの物資をいただきました。皆さまの温かいお気持ちは、現場の医療スタッフの大きな励みになっています。本当にありがとうございます。

憩いの空間「れんがの庭」が11/14にオープン 温かいご支援、ありがとうございました！

病院で過ごす安らぎの場として、中庭「れんがの庭」が誕生しました。赤いレンガが印象的な空間に、木目調のテーブルやベンチが並び、花壇や木々の緑に囲まれながら、ゆったりとした時間をお過ごしいただけます。「れんがの庭」の名称は、職員や学生から募集し、選考の結果、ひがし棟2階の看護師長が命名者になりました。整備には、クオール薬局様、とまと薬局様、一般財団法人同仁会様をはじめ、多くの皆様からいただいた寄附金を活用させていただきました。ウッドデッキには、車いす用のスロープも設置し、安全にも配慮しています。ランチタイムには、豊富なメニューを取り揃えたキッチンカーが日替わりで登場し、列をつくるほどの人気となっています。

一般社団法人 キッチンカーちばpresents
営業時間/11:30~14:00

※キッチンカーの営業は、荒天などで変更・中止になる場合があります。



オープニングセレモニーには、千葉大学マスコットのイノ(左)、マツ(中央)、ニン(右)も遊びに来てくれました。



寄附金で、階段に手すりを設置しました

当院の講堂「ガーネットホール」を利用された方から、「入口の階段で転んでしまったので…」と手すり設置の要望とともに、ご寄附をいただき、活用させていただきました。



個人

- | | |
|----------|----------|
| 太田 廣諭喜 様 | 矢野 裕幸 様 |
| 大西 範子 様 | 渡邊 裕司 様 |
| 草刈 誠一 様 | 須賀 恵子 様 |
| 中林 孝雄 様 | 牛島 亜矢子 様 |
| 前田 真幸 様 | |

ご芳名は、2022年8月～2022年11月に一定金額のご寄附および公開のご承諾をいただいた方をご寄附をいただいた順に掲載しています。(入金日などの関係で掲載が次号になる場合があります)



ご寄附のお申し込みはこちら

外来診療棟1階の簡易郵便局に専用の払込取扱票(郵便局用)があります。どうぞご利用ください。

message



質の高い医療を提供する病院として、 病院機能評価で認定を受けました！

約10年ぶりに受審した公益財団法人日本医療機能評価機構が実施する病院機能評価において、当院は一定の水準を満たしていると認められ、無事に認定を受けることができました。これからもひとりでも多くの患者さんに質の高い高度医療を提供できるように職員一同がんばってまいります！



評価調査者に身振り手振りを交えながら説明を行う横手病院長(中央)

【発行】千葉大学医学部附属病院

〒260-8677 千葉県千葉市中央区玄鼻1-8-1

TEL: 043-222-7171 (代表) Mail: byoin-koho@chiba-u.jp



千葉大学病院ホームページ
https://www.ho.chiba-u.ac.jp/
※バックナンバーをご覧いただけます



この印刷物は、SCOPE1とSCOPE2の温室効果ガスゼロにした工場で作成されています。

Feature
特集

医療 新時代に向けて

Daily
1年目研修医の
ある1日

医師としての基礎を2年間で徹底的に身につける初期臨床研修医。今年度は1年目42名、2年目45名がコロナ対応や働き方改革などもある中、指導医や先輩医師の指導の下、研鑽を積んでいます。

研修医1年目
松本 真璃花

研修医1年目
橘川 澄人



10:30 手術室

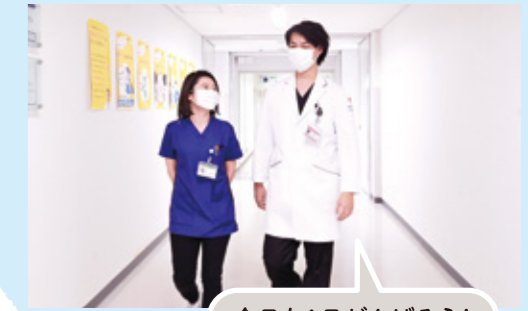
肝胆膵外科のオペに参加。間近でスペシャリストによる高度な手術手技を見て学ぶことができるのも、大学病院での研修の大きなメリットです。



緊張が高まる手技を終えたあと
指導も行う大塚将之科長(教授)

07:30 出勤

初期臨床研修医は、さまざまな診療科や地域の医療機関を回ります。医師としてどんな道を進むのか、只今考え中です！



今日も1日がんばろう！

08:00 カンファレンス

患者さん一人ひとりの病状と治療方針を皆で確認します。難しい治療や希少疾患もあり、大学病院ならではの専門領域の知見を結集して、患者さんにとって最適な治療法を決めていきます。知識だけではなく、医師としての責任と真摯な姿勢を学ぶことができる貴重な時間です。



感染対策をきっかけに
WEBで参加することも

09:00 病棟業務

包帯交換や消毒などの処置や検査の実施・介助は、研修医も責任をもって行います。指導医や他職種の指導のもとで行いますので、よろしくお願いします。



看護師や薬剤師、リハビリの療法士、
栄養士などとのチーム医療を実践。

研修医の学びを 全力サポート

総合医療教育研修センター
笠井 大先生



当院の総合医療教育研修センターでは、初期研修医の成長を支えるため、医師としての基本的な知識、技能、コミュニケーション能力の修得をはじめ、患者さんやご家族、そして一緒に働くすべての職種のスタッフを尊重し、プロフェッショナリズムに基づく考え方や行動ができる医師の育成に取り組んでいます。

今年度の初期臨床研修医1年目が、2年間の研修を終えて専攻医研修に進む2024年4月、医師の時間外労働の上限規制、いわゆる「医師の働き方改革」に関する法律が施行されます。現在、当院をはじめ、すべての医療機関では、医師の業務負担を減らすため、業務の効率化、タスクシェア/シフトなど、健康でやりがいをもって働き続けることができる環境やしぐみの整備に取り組んでいます。

一方で、子育てや介護などと医師の仕事を両立できるよう、休暇や給付金の支援策も増えていますので、キャリア形成の多様性もふまえて、どんなふうにも医師として働き続けていくか、医師自らが将来設計をしていくことも大切と考えています。

ただし、変えてはいけないこともあります。患者さんへのよりよい医療のために科学的探究を常に実践し、生涯にわたって学び続けるという医師としての姿勢です。当院では、医療の質や安全性の維持、向上に努めつつも、働き方改革など持続可能な医療体制の構築に取り組み、患者さんに最適な医療を提供したいという高い志を持つ医師の成長を支えていきます。

各診療科から選出された医師18名がアテン
ディングドクター(教育専任特任教員)として、
研修医の「困った」「わからない」に答えます

アテンディングドクター
竹田 健一郎 先生



12:00 昼食

晴れた日には、中庭で仲間や先輩とランチをすることも。もちろん、黙食&マスク会話で！



「れんがの庭」に日替わりで
キッチンカーが来ています。
どなたでも利用できます。
くわしくは裏表紙へ！

おつかれさまでした！

21:00

業務終了！

カルテの入力などを済ませ、明日の準備をして帰宅。次の日に備えて、休養はしっかりとりまします！



17:30 救急外来
(月に2、3回)

指導医とともに救急外来当番もしています。この日は、出勤早々にコロナ患者さんの受入れ要請が入り、救急科の医師らと対応に当たりました。当番がない日は夕方に帰ることも...

20分後にコロナの救急搬送が！
すぐに防護服を



15:30 トレーニング

日本最大級の研修施設が院内にあり、高機能のシミュレータを使用して「練習し、実践し、振り返り、考え、練習する」を繰り返して、スキルの向上、さらには医療の安全を実現します。



One for All, All for One

糖尿病の合併症を起こさせない、悪化させない！ チーム一丸となって患者さんと並走します

No.8 糖尿病 コンプリケーションセンター

- 皆さんは、糖尿病についてどのくらいご存じですか。いきなりですが、クイズです。○か×でお答えください。
- Q1 糖尿病は、痩せている人でもなる
 - Q2 糖尿病の原因は、運動や食事など生活習慣の問題とは限らない
 - Q3 合併症を併発し、視力低下や失明、透析が必要になることもある

答えは、すべて○です。糖尿病は血糖値が高い状態が続く病気です。自覚のないまま血管や神経の障害が進み、網膜症、腎症、神経障害、動脈硬化による狭心症や脳卒中などの合併症(コンプリケーション)を併発します。健診などで糖尿病が疑われたら、早いうちに受診することをお勧めします。原因は多種多様で、肥満や生活習慣によるものとは限りません。当院の糖尿病コンプリケーションセンターでは、内科と外科、多職種が連携して治療に当たっています。



臨床検査技師

糖尿病教室で血液検査の結果の見方を教えたり、妊娠糖尿病外来で自己血糖測定器の使用方法を教えたり、自己管理できるようにサポートしています。



自分で血糖測定ができるように指導します

看護師

患者さんが治療を中断しないよう、一緒に目標を決めて寄り添いながらセルフケア支援を行っています。足壊疽予防のフットケアと、腎症予防の透析予防支援を行っています。



フットケア外来で足の状態をチェック

理学療法士

月1回の糖尿病教室で運動療法を担当しています。実際に生活の中で取り入れられる有酸素運動や筋力トレーニングを一緒に考え、動きの留意点などを教えています。



自宅のできる運動を教えています

医師

循環器内科や脳神経内科、形成外科、腎臓内科など他科、多職種との連携による高度医療が当院の強みです。今後は地域のかかりつけ医との連携も強化して、患者さんの治療に貢献していきます。



治療を行った後も効果を継続的に確認

管理栄養士

普段の食生活をお聞きし、糖尿病の改善につながる食事療法をご提案します。個々人の異なる合併症や生活背景を考慮しながら、患者さん自身がより良い方法を見つけられるようサポートします。



栄養指導は患者さんの生活に合わせて行います

糖尿病の合併症を 予防する方法は？

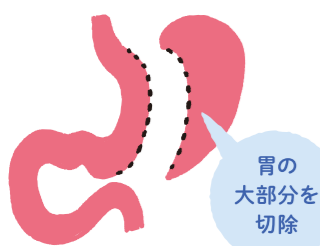
糖尿病コンプリケーションセンター
小野 啓 センター長

糖尿病の治療法は、原因によって異なります。患者さんとの対話を通じて原因を探り、食事療法や運動療法、薬、外科手術などを組み合わせて治療していきます。何より重要なのは、心理的アプローチにより患者さん自身の治療への意欲を高めること。社会的偏見が治療の妨げになることもありますので、周囲の正しい理解が必要です。

肥満症に対する外科手術で 胃の大部分を切除

食事や運動で減量できない場合、食道胃腸外科と連携して、腹腔鏡で胃の大部分を切除する肥満症の外科手術を行うことがあります。全国23施設が実施していますが、日本で初めて行ったのは米留学から帰国した千葉大学の川村功博士で、1982年に開腹手術を行いました。

腹腔鏡下スリーブ状胃切除



胃の大部分を切除

薬局で買える新しい薬も！

処方薬の種類も増えていますが、処方せんがなくても薬局で購入できる薬が今春承認される見込みです。高血圧や脂質異常症などの健康障害がない肥満の人に限られ、対面で薬剤師指導を受ける必要もあるなど、注意点はありますが、脂肪吸収を抑制する効果が期待される薬です。



薬剤師の仕事は、薬の調剤だけではなく、医療の高度化や合併症による病態の多様化に伴い、薬物治療も複雑化する中、有効で安全な薬の使用とリスク回避に貢献し、医療チームの一員として患者中心の医療の提供を目指しています。



医療チームの一員として 患者さんの薬物治療をサポート

薬剤部 薬剤師
伊集院 昌以



普段どんな業務を？

病棟で入院患者さんに、薬の飲み方の説明や薬による効果や副作用の有無の確認など、入院の準備段階からサポートしています。退院した後も安全に薬を飲んでいただくため、お薬手帳を通じて薬局とも連携しています。



仕事の中で嬉しかったこと、 心に残ったことは？

抗がん剤投与後、副作用がひどく、薬を飲めずにいる患者さんがいらしたので、医師と相談して薬を追加・変更したところ、副作用が落ち着き、薬も飲めるようになりました。患者さんに笑顔がみられたときは嬉しかったですね。



これから挑戦したいことは？

移植に関わる薬剤師になりたいです。移植では多種類の薬を使うことが多く、薬の飲み合わせや薬と相性の悪い食べ物など、気をつけるべき点がたくさんあるので、薬の面から移植をサポートできたらと思います。



患者さんにお伝えしたい メッセージは？

薬は効果がある反面、副作用もあります。患者さんが安心・安全に薬が飲めるように日々サポートしています。薬について不安なことや疑問に思ったことがあれば、いつでも、遠慮なく私たち薬剤師にご相談ください！



気分転換したいときは、海にドライブに行きます。私は海がない県の出身なのですが、千葉の海が大好きになりました！

幸福感アップ！ 就寝5分前のあたらしい習慣

「3つのいいこと日記」(three good things)

夜、布団に入ったあとに、ふと不安や焦りがよぎり、眠れなくなる…。そんな経験はありませんか？ 疲れていると、マイナス思考のループに陥りやすく、なかなか抜け出せなくなります。プラス思考に転じる、とっておきの方法をお教えます。ぜひ、お試しください。

監修：
千葉大学病院
認知行動療法センター
清水 栄司 センター長



そうすると…

- 今日1日が思うほど悪くなかったように感じる。
- 気分が落ち込んでいると、悪い方向に考えてしまいがちだが、冷静に振り返れば、できたこと、楽しかったこと、感謝することに目を向けることができる。
- 小さなポジティブな出来事に目を向けることができれば、自然と日々の幸福度がアップする。

今日1日を振り返り、ささやかな幸せでいいのであたりまえとせず、3つのいいことを書く。

(例)

1 掃除ができた



2 犬と会って楽しかった



3 温かい食事に感謝



01

小児病棟のみんなを癒すワン！ ドッグセラピーを開催しました

11月29日、当院小児科病棟にセラピー犬が遊びにきてくれました。コロナの影響で対面でのドッグセラピーは実に2年半ぶり。最初は大型犬にびっくりしていた子どもたちも慣れてくると、そっと優しく頭をなでたり、耳やしっぽを触ったりして、わんちゃんたちとのふれあいのひとときを楽しんでいました。



ドーベルマンのサファイアちゃん。子どもたちが手を差し出すと興味津々にクンクンしていました。



ラブラドルレトリバーのりんちゃん。とても人懐っこく、子どもたちに優しく頭を撫でられ、思わずにっこり。

03



リハビリテーション部でも撮影しました！

ドラマ「祈りのカルテ」撮影協力！ 当院職員たちの仕事風景も多数登場

2022年10月～12月に放送された、玉森裕太さん主演のドラマ「祈りのカルテ」のロケ地として、撮影協力をしました。同ドラマでは、場面転換のシーンで、当院職員の実際の仕事風景が使用されていますので、ぜひ見逃し配信などでご覧ください！

02



会場にはECMOカーやDMATベストなどが展示されました。

災害の教訓から防災を考える 災害治療学シンポジウムに登壇！

11月19日、大規模災害とパンデミックから学ぶ社会づくりをテーマに、千葉大学災害治療学研究所がシンポジウムを開催しました。当院の清水栄司教授と大島拓准教授も登壇し、災害後のメンタルヘルスや当院での災害治療について講演しました。

05



集中治療室における呼吸管理の実習演習風景

コロナ対応人材養成研修会を開催 県内医療従事者が病院運営を学ぶ

11月17日、県内の医療従事者にコロナ禍の病院運営や感染対策などを学ぶ研修会を開催しました。講義だけでなく、実際のコロナ病棟の見学、実践を交えた感染対策のレクチャー、高機能シミュレーターを使った実習演習など、幅広い内容で行いました。

04



麻酔・疼痛・緩和医療科の磯野史朗教授(写真上)を中心に開発

千葉大×ミネベアミツミの共同開発 「拘束しない」医療用ベッドセンサー

ベッド上における患者さんの状態を把握することは、容体の急変にいち早く気づき、治療を開始するために必要なことです。このシステムは、患者さんの呼吸数や心拍数などをリアルタイムで見守ることができます。発売は2023年4月上旬予定です。

